

公表日

2026年2月15日

事業所名

こどもサポート教室「きらり」磐田校

利用児童数

11

回収数：

13

チェック項目		はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	10	3	0	0	いらない机が多い気がする	様々な状況に応じて対応できるように考えているので普段使用していない机が目に入っているかと思われます。子どもに危険が及ばないように、保管において気を付けて参ります。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	11	1	0	1		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境（※1）になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	7	5	0	1		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	10	2	0	1		
適切な支援の提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	11	2	0	0	担当する方によってこどもの理解（言葉の捉え方など）に差があるのを感じますが、ほとんどの方が上手に汲み取ってくれていると思います以前は「はい」と感じたがスタッフが変わりすぎて何とも言えない	お子さまの情報共有は毎日の朝礼で行い、それぞれのお子さまにどのように対応していくと良いかを話し合っています。各指導員の良さを生かしつつ、より良い支援が提供できるよう研修等重ねていきます。
	6 事業所が公表している支援プログラム（※2）は、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	11	0	0	2		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）（※3）が作成されていると思いますか。	9	2	1	1		普段の支援の様子や保護者様からのご意見をもとに個別支援計画を作成しています。お子様の様子や計画内容が合わないことがあれば、支援後に毎回申し送りをしているので対応させていただきます。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	11	0	1	1		お子様のきらりでの様子を指導員から、ご家庭での様子を保護者様からより傾聴して計画を作成していきます。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	10	2	0	1		
	10 事業所の活動プログラム（※4）が固定化されないよう工夫されていると思いますか。	12	1	0	0		
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	7	2	2	2		園や保護者様からのご要望に応じて、交流の機会は設けていきたいと考えています。
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	12	0	0	1		
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	10	2	0	1		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング（※5）等）や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	9	3	1	0		定期的に「きらりカフェ」を実施し、情報共有の場を提供しています。皆様のニーズに合うような場を提供していければと思います。

保護者への説明等	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	10	2	1	0		毎回の支援後に申し送りを行っています。支援の内容に限らず、家庭や園などの近況確認も一緒に行い共通理解が深められるよう努めてまいります。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	7	5	0	1		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	11	1	0	1		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3	5	2	3		きょうだい向けのイベント等は現在実施していません。ニーズや状況に応じて検討してまいります。保護者会に関しては、定期的に「きらりカフェ」を実施しております。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	10	2	0	1		
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	10	2	0	1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	5	5	0	3		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	13	0	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	8	2	0	3		各項目において委員会を設置し、他校舎と連携して活動しています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	8	1	0	4		毎月1回以上の防災訓練を継続して実施しております。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	8	3	0	2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	11	1	0	1	そのような状況下が今はないのでわからない	事故等が発生した場合には、保護者への伝達とともに、ヒヤリハットや事故発生報告書を作成し発生を未然に防ぐ策を講じています。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	13	0	0	0		
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	11	2	0	0	なんでもママがいいになってしまうため、楽しみかどうかはわかりにくい、絶対嫌ということはない	お子様が楽しく通所できるよう職員一同で努めていきます。支援の後でお楽しみの時間を設けているので、楽しかったという気持ちで帰れるようにしています。
	29	事業所の支援に満足していますか。	10	3	0	0		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
こどもサポート教室「きらり」磐田校		2025 年 2 月 14 日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・お子様の支援内容や特性に合わせ環境設定（椅子、机の高さ、声かけ）を行っております。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・2025年12月現在は児童指導員6名、(保育士、心理担当、作業療法士、精神保健福祉士)などそれぞれの専門性を生かした療育を提供させていただいております。	・日によって職員配置が少なくなってしまう時もある。毎日余裕を持った配置ができるようにしたい。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・個別療育のため、個室での支援を行っています。 ・掲示物を設置する際は、お子さんの刺激になりすぎない程度のもをを設置するよう心掛けております。 ・入りの段差は段差解消マットを使用しています。 ・支援室内は掲示物など刺激になるものを減らしています。 ・建物の構造上、変えることは難しい。なるべく、指導員たちに出来るような取り組みはしています。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・毎日清掃を行っているため清潔です。お子さんの活動や特性に合わせた広さの療育室で支援を行っております。 ・毎日掃除を行い、その際に換気もしています。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・個別療育を行っているため、支援中は個室で過ごしています。療育の内容によっては、広いスペースに移動し活動を行っています。 ・毎日の朝礼で、利用者に合った部屋の割り振りをしています。希望に応じて部屋の変更もしています。	
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		・本事業所評価を公開しています。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・本事業所評価を公開しています。 ・年に一度事業所評価を配布し、必要に応じて改善しています。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・朝礼や1on1面談などで全体でも個別でも意見を言える環境をつくられております。 ・1on1面談を実施しています。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		・第三者評価については検討中です。 ・第三者による外部評価は行っていません。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・教室内外の研修や発達支援研究所の事例検討会に参加しております。 ・外部講師を招き、事例検討会を行っています。また、会社主催で研修を実施しています。	
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・5領域に沿った支援プログラムを作成し、支援終了時のフィードバック時に保護者へ提示しております。 ・プログラムを作成し、利用者に合った支援を行っています。	

12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○	・年度初め、保護者様にアセスメントシートの記入をしていただき、全体でお子さんの様子を周知しています。その他日々のお子さんの様子は全体で共有を行っています。 ・年に一度必ずアセスメントを取っています。発達段階の知れるツールを用いて適宜行うこともあります。	
13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○	・指導員とお子さんの情報共有を行いながら、職員全員で対象児童の個別支援計画に目を通し、修正、改善を行っています。 ・支援を担当した職員がモニタリングを行った後、計画を立てています。作成した計画は必ず回覧しています。	
14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○	・モニタリング会議を経て作成された個別支援計画は、職員に周知しています。	
15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○	・年に一度のアセスメントに加え、NCプログラムなどを使用し、アセスメントを行っています。	
16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○	・個別支援計画に内容が記載されています。	
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○	・職員同士で支援の内容を共有し相談しながら組み立てを行っています。 ・個々でプログラムを立てていますが、必要に応じ相談しています。	
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	・お子さんの成長や保護者様のニーズ、園や自宅での様子を聞きながらその時に必要な力を伸ばすことができるようにしています。 ・一定期間の固定があることもありますが、状況に応じたプログラムの変更を行っています。	
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○	・月に1回小集団活動を行っています。また定期的に児童発達支援のお子さんを対象とした親子参加の小集団もおこなっています。 ・個別支援に加え、小集団支援も月に一回行っています。また、定期的に普段の利用枠とは別の時間帯で小集団活動を行っています。	
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	・来所予定のお子さんを確認し、療育室、使用する机やイスのセッティング、などスムーズにかつ安全に受け入れが出来る様にしています。	
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	・終業後に難しい場合もあるため、翌日朝礼時に行っています。 ・翌日に朝礼を行い、支援の振り返りをしています。	
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	・実施できています。 ・記録を記入しながら支援内容を自信で振り返り、次回の支援につなげています。	
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	・期間内にモニタリング、個別支援計画の作成を滞りなく行うことができます。	
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	・管理者と主な担当指導員が出席できるようにしています。内容は職員間で共有しています。 ・利用者をよく理解している職員が担当者会議に参加している。	

関係機関や保護者との連携	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・必要に応じて行っています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・保護者様と共有し連携を取ることができています。 ・必要に応じて行っています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・保護者様と共有し連携を取ることができています。 ・希望に応じて行っています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		○		・希望に応じて検討していきます。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○	・現在交流はありません。	・ご希望があった際は、園や学校とのし出向き情報共有をすることが可能です。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・支援終了後に保護者様と話す時間を設け、情報共有を行っています。 ・支援終了後に申し送りをしています。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		・「きらりカフェ」という保護者さま向けの講習会を、きらり主催で行っています。 ・案内があれば掲示をしてお知らせしています。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		・契約時に行っています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		・お子様の自宅や園での様子をうかがったうえで、計画の立案を行います。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		・同意を得たうえで支援を行っています。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・毎回の支援終了後に保護者様と話す時間を設けています。 ・必要に応じて面談を行っています。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		・検討していきたいです。 ・年に2度「きらりカフェ」を開催しています。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・相談があった場合には管理者もしくは担当の指導員と対応を行っている。お子様や保護者様の相談内容は職員全体で共有し意見が偏らないようにしています。 ・希望があれば日程を調整し面談を行っています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		・LINE、ブログなどSNSを通じて発信しています。 ・活動の様子をブログで報告しています。	

非常時等の対応	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・個人情報はカギのかかる書庫に入れています。職員室がオープンスペースの為、個人情報の取り扱いには、職員同士声を掛け合い十分気を付けています。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		・発達段階に応じた言葉の選択、端的に物事を伝える、視覚的に訴えるといった対応をしています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		・地域の会合などの参加しています。 ・地域の方を招いての行事は行っていません。	
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・各マニュアルを用意し、周知しています。毎月テーマを決めて防災訓練を実施しています。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		・毎月テーマを決めて防災訓練を実施しています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		・アセスメントシートにて服薬やてんかん発作等のこどもの状況を確認し、予防接種に関しては保護者から聞き取りを行っています。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・アセスメントシートにアレルギーを記入していただき、職員は把握しています。 ・食事やおやつを提供をしていないため、医師の指示書に基づいた対応は行っていません。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		・実施しております。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		・安全計画は手に取れる場所に掲示しています。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・ヒヤリハットがあった際は、記録として残しています。指導員同士で同じことが起こらないように話して環境整備を行っています。	
非常時等の対応	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・虐待・身体拘束防止委員会を中心に行っています。研修内容は校舎内で周知されています。また、チェックリストを校舎内で行い委員会で共有しています。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		・すべての個別支援計画に“安全のためやむを得ず身体拘束する可能性があること”を明記し保護者様に説明同意を得ています。	

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」磐田校		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 24日 ~ 2025年 12月 29日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11人	(回答者数) 13人
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日 ~ 2025年 12月 29日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意図的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援を主として行いつつ小集団支援も組み合わせて支援内容に幅を広げていること。	状況に応じて机などを移動させ、空間を広く使うようにしている。	不必要なもの、普段なかなか使われないものを整理してより空間を広く使えるように努める。
2	アナログゲームの数が多く、利用時の状況に応じた支援の幅が広がっている。	お楽しみのゲームとしてだけでなく、支援としてもアナログゲームを取り入れて楽しく活動できるようにしている。	支援として活用できるようなアナログゲームを積極的に活用していく。そのための情報収集をしている。
3	作業療法士や保育士、精神保健福祉士など保有資格や年齢層に幅があり、様々な児童への対応を可能にしていること。	担当制にしないで一人の児童に対してなるべく多くの職員が当たるようにしている。	資格や経験値にとらわれず、みんなで意見を出し合ってより良い支援を提供する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援以外の業務になかなか手が回らない時がある。	職員一人一人に対する仕事量がキャパシティを超えていると感じる時期がある。	効率の良い仕事ができるように作業分担をしたり優先順位をしっかりと立てた仕事ができるように喚起していく。
2	ある程度広い敷地であると思われるが、生かし切れていないところもある。	余計なものが多く、整理がし切れていない。	できるときに整理していくようにする。個人ではなく、事業所全体で動く時間を設けていく。
3	同一校舎内に留まりがちで、他校舎の支援や他事業所の支援を参考にする機会が少ない。	他事業所との交流がなく、同じきらり内での交流が減ってきている。	機会があれば積極的に参加できるよう時間を作っていく。

